

龍潭・松崎馬場周辺の整備について

1. 龍潭周辺の階段整備について
2. 龍潭周辺のトイレ整備について（松崎馬場含む）
3. 龍潭線の中城御殿前区間の整備について

1. 龍潭周辺の階段整備について

① 龍潭水辺園路へ降りる階段の整備方針

- 令和5年度 第1回中城御殿跡地整備検討委員会において、龍潭線（県道29号線）から水辺園路へ降りる階段の整備計画について報告した。
（現存する石階段に一部破損が見られることや、利用者の安全確保のために、ウッドデッキ階段を整備する案）
- 委員会では下記のような意見があった。

■ 令和5度 第1回中城御殿跡地整備検討委員会（2023年6月12日開催）における主な意見

- 松崎馬場の整備が完了すれば、龍潭の園路から松崎馬場に上がっていくことができるので、このような景観を損なうおそれのある人工的なものは不要ではないか。地域の皆さんには園路整備の全体像が伝わっていないので「園路の通行のために階段で下ろしてほしい」という意見が出たが、松崎馬場が整備されて通行できるのであれば必ずしも木製デッキでなくてもよいと思う。
- 松崎馬場から通行できるようになれば、デッキがなくても機能的に園路機能は損なわれないだろうし、景観を乱すことにもならない。

- 上記意見をふまえ、地域住民と現地確認及び意見交換を行った結果、下記の内容で整備を進める了解が得られた。

龍潭水辺園路へのアクセス確保の方針

- 景観を阻害するおそれがあるため、ウッドデッキ階段は整備しない。
- 現存する石階段については、現状維持とする。
- 松崎馬場広場から龍潭周辺の既存園路へアクセスするための階段を整備し、龍潭周辺を周遊できるようにする（次頁参照）。

1. 龍潭周辺の階段整備について

(参考) 令和5年度 第1回検討委員会で提示した資料 ※青字は今回追記

1. 龍潭線(県道29号線)から龍潭水辺園路へ降りる階段

(「首里城公園調査測量設計業務委託(H23)_H25年2月、沖縄県南部土木事務所」より抜粋)

現在、龍潭線(県道29号線)から龍潭水辺園路へ降りる石階段があるが、石階段に一部破損が見られる事や、石階段の勾配が急で降雨時に滑る事、さらには蹴上や踏面の寸法が一定でないため、階段を踏み外す恐れがある事など、安全面や機能面の課題を解消するため階段設計を行った。



■ 現況



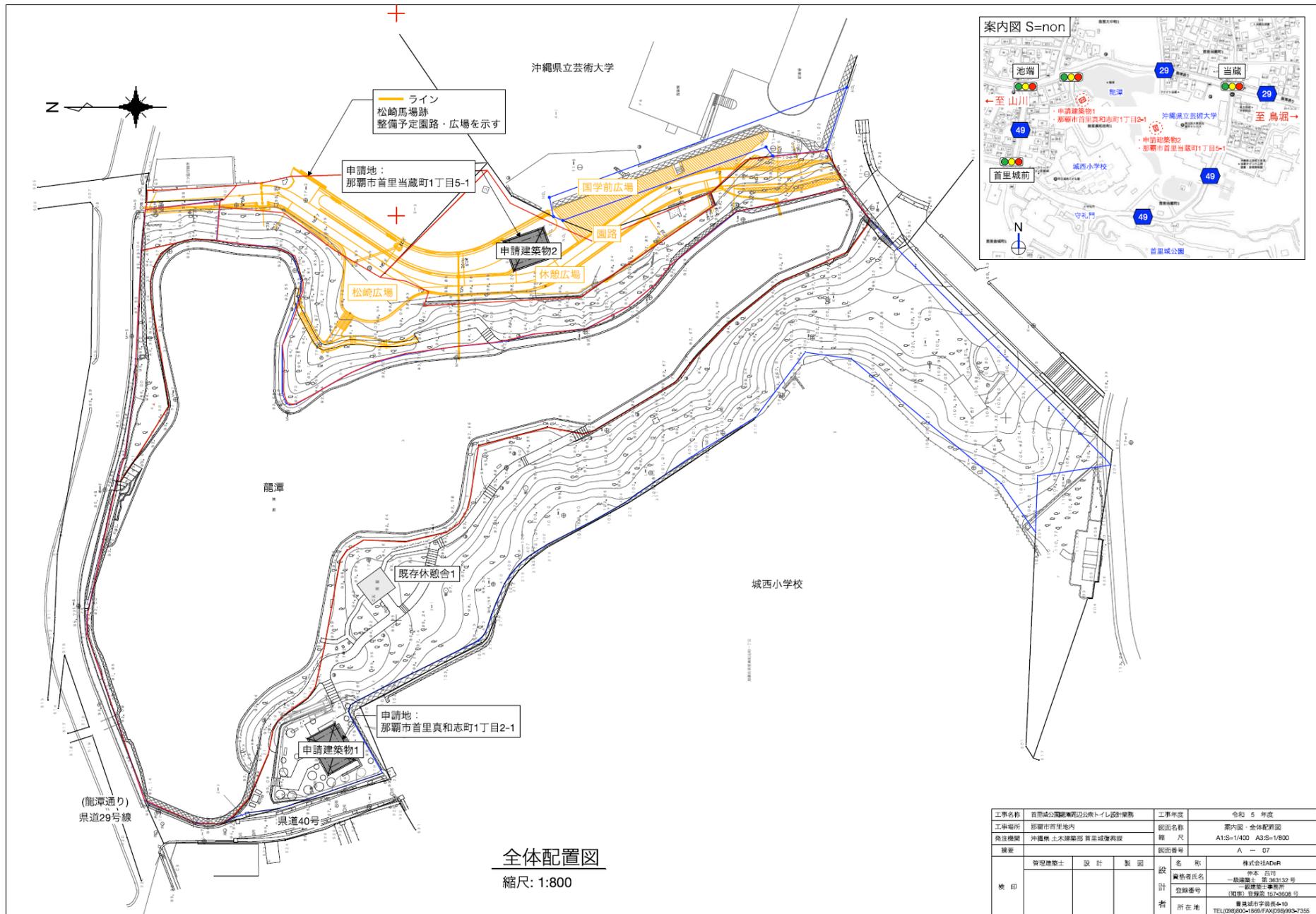
■ 階段イメージバース (左：龍潭線から階段を見る／中央：水辺園路から階段を見る／右：対岸から階段を見る)

※ウッドデッキ階段は、景観を阻害するおそれがあるため、整備しない方針とした

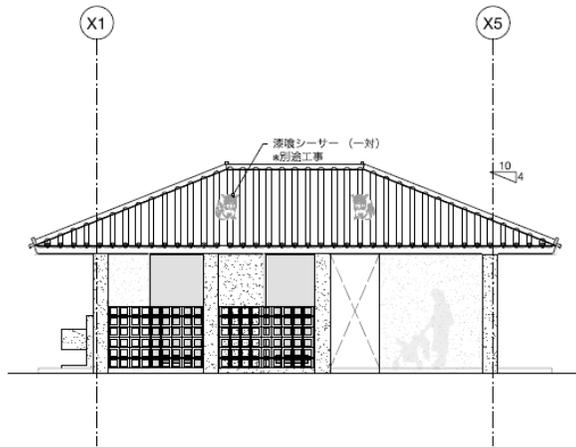


※主要部材：手摺り支柱(アルミ)、手摺り格子(アルミ)、手摺り笠木(合成木材)、床材(GRP材)

2.龍潭周辺のトイレ整備について（松崎馬場含む）

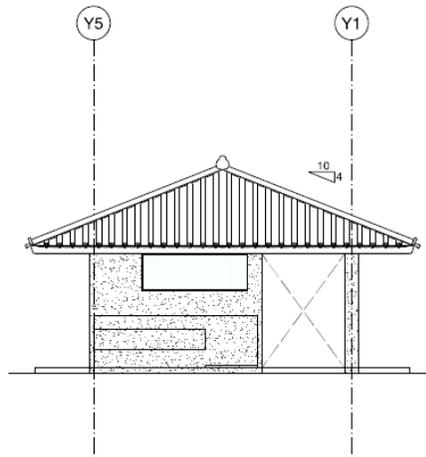


2. 龍潭周辺のトイレ整備について (松崎馬場含む)



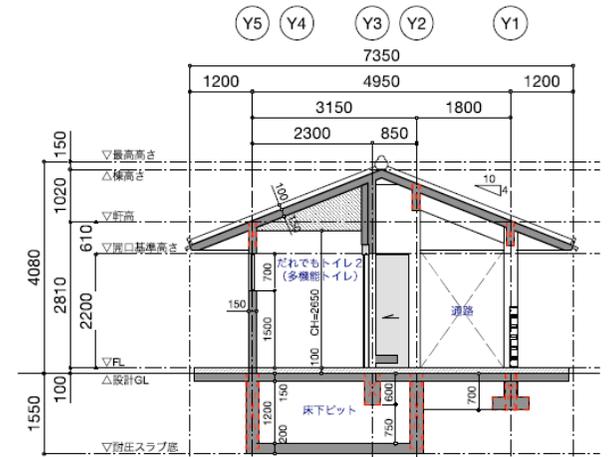
Ⓐ 立面図

縮尺: 1:100



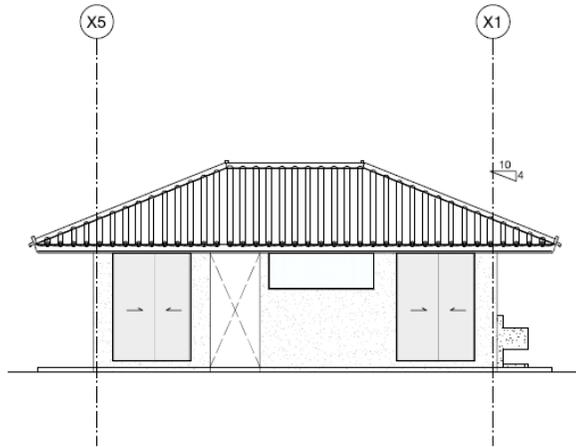
Ⓑ 立面図

縮尺: 1:100



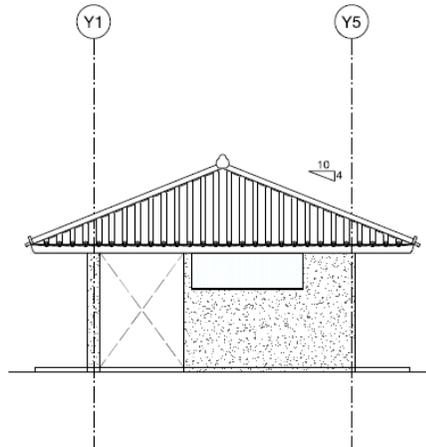
A-A断面図

縮尺: 1:100



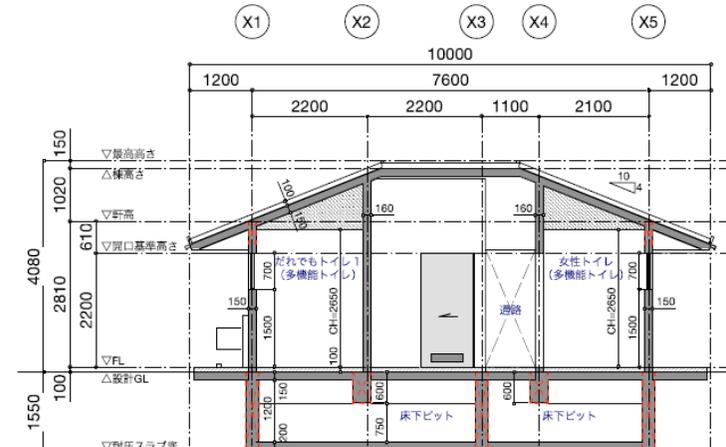
Ⓒ 立面図

縮尺: 1:100



Ⓓ 立面図

縮尺: 1:100



B-B断面図

縮尺: 1:100

2. 龍潭周辺のトイレ整備について（松崎馬場含む）



3. 龍潭線の中城御殿前区間の整備について

①歩道の舗装について

- 令和5年度 第1回 中城御殿跡地整備検討委員会において、下記の意見があった。

- 中城御殿正門前に位置する龍潭通りは現在、四角い石畳舗装がなされているが、もとは石粉舗装だったのではないかと想像する。ここを石粉舗装として井戸や石垣のあとを石舗装として区別するというのも一案ではないか。
- 問題は安全性であり、車からガードレールが視認できるか。反射板でもよいが車が視認できる機能が必要である。

- この意見を踏まえ、琉球石灰岩方形張り舗装を**石粉風舗装(脱色アスファルト舗装)**に変更したい。また、**ボラード車道側面に反射板**を設置したい。

●戦前写真(提供_那覇市歴史博物館HPデジタルミュージアム)



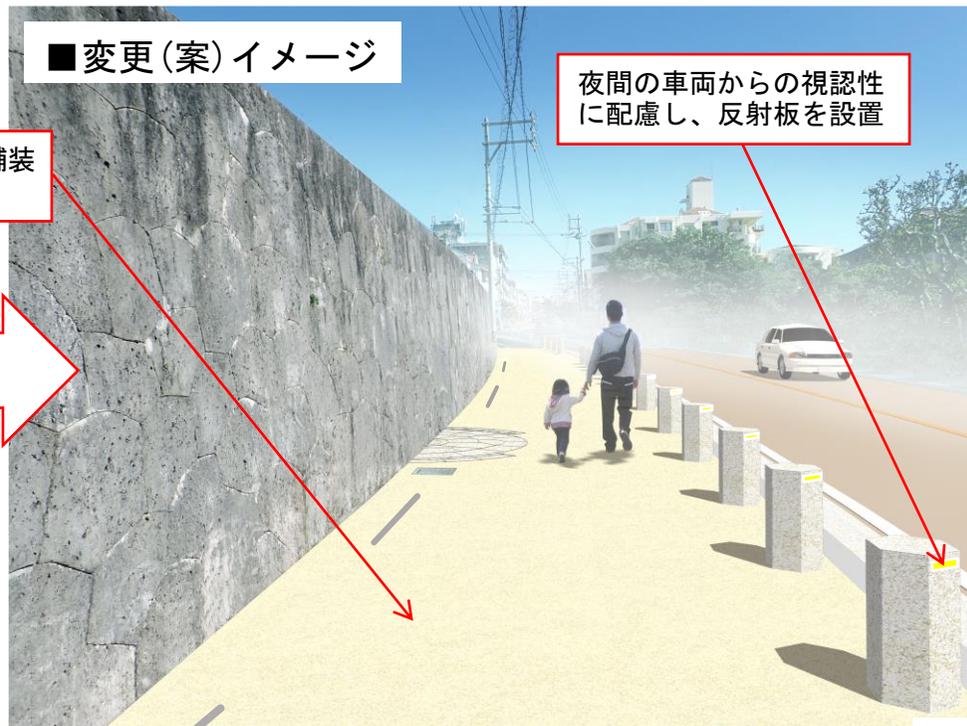
□当初計画(案)イメージ

琉球石灰岩方形張り舗装を石粉風舗装(脱色アスファルト舗装)に変更



■変更(案)イメージ

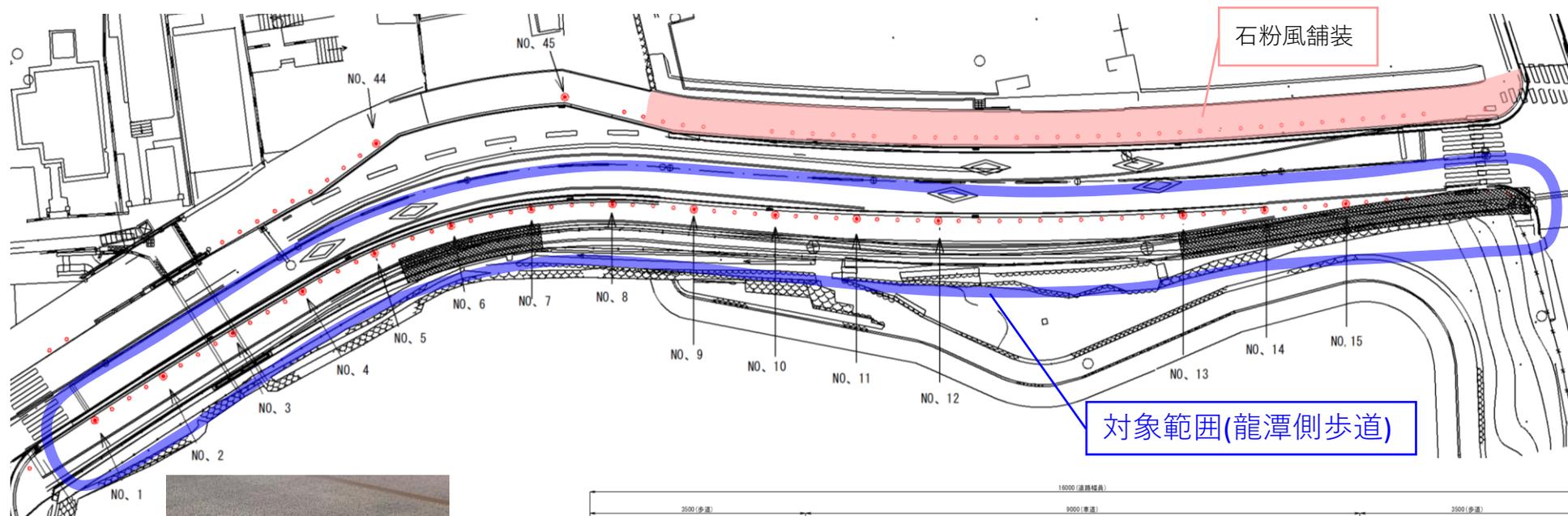
夜間の車両からの視認性に配慮し、反射板を設置



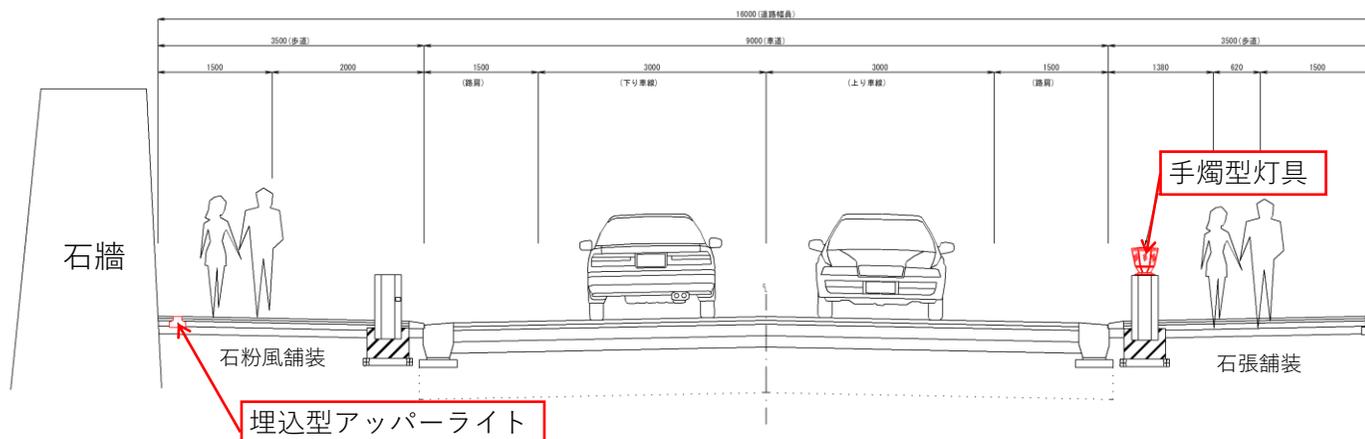
3.龍潭線の中城御殿前区間の整備について

②照明（フットライト）について

- 龍潭線の夜間照明は、山川交差点～池端交差点において、沖縄の古典芸能である組踊で用いられる「手燭」をモチーフとした朱色のすり鉢形状灯具（以下、手燭型灯具とする）が設置されている。
- 現計画では龍潭側歩道には手燭型灯具を、石牆前歩道は埋込型アッパーライトを（※次頁参照）設置する予定である。



▲龍潭線の既設照明フットライト



3. 龍潭線の中城御殿前区間の整備について

(参考) 石牆前のライトアップ/令和5年度 第1回検討委員会で提示した資料

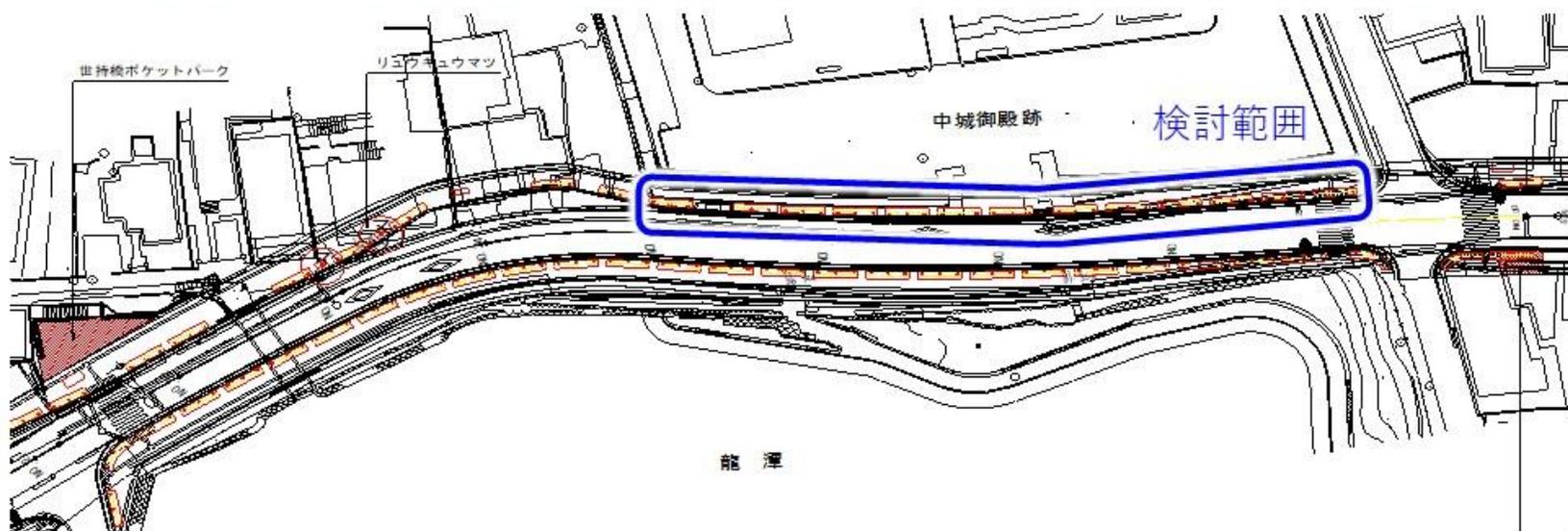
2. 景観照明ライトアップ演出方針案 (中城御殿正門石牆)

【景観照明ライトアップ演出方針案の検討】

- 魅力ある夜間景観の創出を目指すため、中城御殿の正門前石牆についても追加検討を行った。
- 石牆の印象的な演出や、歩道における夜間歩行の視認性確保の観点から、正門石牆前の範囲については、手燭型灯具から歩道への埋込型ライトに変更し、石牆に反射した明かりで歩道を照らす案を検討中。

■ポイント

- 歩道の視認性を確保する (石牆からの反射光で平均照度11.6Lx)。
- 周辺から石牆を眺める視点を妨げない。
- 光による石牆の演出を図る。



3. 龍潭線の中城御殿前区間の整備について

(参考) 石牆前のライトアップ／令和5年度 第1回検討委員会で提示した資料

